B27 *Paraboreochlus* sp. - 日本で発見された 2 番目のケブカユスリカ亜科
(Podonominae)

小林 貞 (上智社会福祉専門学校)

Paraboreochlus sp. - the second record of Subfam. Podonominae from Japan
(Chironomidae, Diptera)

Kobayashi, T.

ユスリカ科は現在 10 亜科に分けられているが、日本で発見されているのはこのうち、7 亜科である。これらのうち、もっとも普通なのは、ユスリカ亜科 (Chironominae) とエリユスリカ亜科 (Orthoclaadiinae) である。日本でのケブカユスリカ亜科 (Podonominae) の記録は非常に希で、Okazawa, Kamimura and Sasa (1993) の富山からの *Boreochlus thienemanni* Edwards が唯一のものであった。今回、沖縄のユスリカ調査 (千葉県立中央博物館 倉西良一氏依頼) の結果、ケブカユスリカ亜科で日本では 2 番目の記録となる、*Paraboreochlus* sp. を発見したので報告する。本種が新種であるかどうかは今後の詳細な検討に委ねたい。

B28 有害なユスリカ類の産卵様式と卵塊について

近藤繁生 (愛知医大・寄生虫学)

Ovipositing behaviours and egg masses of pestiferous midges
(Diptera: Chironomidae)

Kondo S.

ユスリカの産卵様式については、橋本 (1985) が「日本産水生昆虫検索図説」の中で、粘着卵と沈降卵に大別し、幼虫の分布や生活史との関連について記述している。また、沈降卵については、ばらばらに産みつけられるもの、卵塊として一度に産みつけられるものに分けている。さらに、卵塊の形態についても、紡錘形、ラセン型、塊状などに分類している。その後、卵塊の形態については、Nolte (1993) が「ユスリカの卵塊」の総説の中で、卵塊の一次構造から三次構造まで詳しく解説し、卵塊の形状に基づく属の検索を試みている。他方国内では、菅谷 (1995) が、モンユスリカ亜科、エリユスリカ亜科、ユスリカ亜科に含まれる普通種 15 種について、産卵様式、卵塊の外形、卵塊の柄状部の有無、その他卵数についてまとめ、ゼリー状卵塊の孵化幼虫保護について報告している。今回、大量発生種としてアカムシユスリカ、シオユスリカ、キンガワフユユスリカなど、植物食害種としてトラフユスリカならびに飲料水混入種など有害なユスリカの産卵様式、卵塊の形状について、個々の種の生息場所など生活史と関連させて報告する。